

科目名	初等社会			担当教員	平林 豊樹	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1SRE208
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	テーマは、《現代社会の仕組みや働きと人々の生活とを守る原則としての立憲主義》です。立憲主義とは何か、憲法が保障するものは何か、という観点で講義します。この、社会科を教える者が大前提として知っておくべき最も初歩的な基礎知識が、講義内容です。「立憲主義は政治と歴史と文化との中でどの様に形成されて来たのか、グローバル化する世界にとって何故重要なのか」という問題に受講生が大まかに答えられる様になるのが、目標です。					
授業の概要	「近代社会の中で立憲主義がどの様に形成されたのか、社会の仕組みや私たちの生活をどう守っているのか」を説明します。政治思想史、社会思想史、欧米と日本との近代史、の流れを辿りつつ説明します。殆ど毎回、授業内容に関する作文を課し、これを意見発表及びプレゼンテーションとします。映像資料を見る可能性があります。定期試験期間に試験をせず、第15回は実質的な期末の試験と心得て下さい。授業第1回で授業の仕方その他を説明します。					

授業計画	
第1回	ガイダンス～授業の仕方について
第2回	立憲主義の歴史～権力濫用の阻止と基本的人権の尊重
第3回	立憲主義の歴史～国民主権、権力分立、平和主義
第4回	立憲主義の歴史～より良き立憲主義を目指して
第5回	日本の立憲主義の誕生～明治憲法の公布迄
第6回	日本の立憲主義の誕生～明治憲法の特徴
第7回	敗戦以前の立憲主義の失敗～明治憲法はどの様に運用されたのか
第8回	日本国憲法の制定～新憲法の制定過程
第9回	日本国憲法の意義～新憲法が社会の仕組みと人々の生活とに有する意義
第10回	敗戦後の立憲主義の可能性～人類の歴史的成果としての新憲法が今後のグローバル化する世界に有する意義
第11回	映像資料の鑑賞～20世紀の大戦を回顧する
第12回	映像資料の鑑賞～戦争責任を考察する
第13回	映像資料の鑑賞～政治と倫理との関係を考察する
第14回	映像資料の鑑賞～資料から読み取ったことを文章化する
第15回	まとめ～学生に質問し筆記で回答させる（実質的には期末の試験に相当する）。

事前学修	2時間	授業の各回で次回の予告をするので、それに基づいて準備しなさい。
事後学修	2時間	ハンドアウトとノートとを見直しておきなさい。
フィードバックの方法	教員は、授業時間内で学生に書かせる作文に目を通して学生の授業理解度を知り、それを授業の進め方に反映することがあり得ます。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	90%	授業第15回の結果が、成績段階を決定します。成績評価方法は、授業第1回で説明します。

レポート	10%	レポート、授業中の課題作文に依って、学生の授業理解度を確認します。
定期試験	0%	定期試験期間には試験をしません
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	指定しません。授業中に、必要に応じて、参考文献、インターネット・サイト、その他を紹介します。
参考資料	レポートなどの課題を提示することがあります（提示時期は未定）。この学校の学習支援インターネット・サイトの「教材」欄にハンドアウト等を掲載します（第1～3回迄の間に）。			

科目名	初等社会			担当教員	高田 準一郎	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	ED1SRE208
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	小学校社会科の目標や学習内容を踏まえ、社会の見方や考え方に関わる知識や技能を学びます。日本の諸地域の地理や文化遺産について考察を深め、広い視野から実践的に探究していきます。到達目標は、教科教育における専門的な知識と実践的な指導力を身に付けることです。					
授業の概要	小学校社会科の学習内容を踏まえ、日本の諸地域の地理では、日本の西部や日本の中央部、日本の東部におけるそれぞれの自然のすがたや地域の産業、地域の特産物などについて、また日本の諸地域の歴史では、郷土の人物や文化遺産などについて、それぞれ考察を深め、広い視野から実践的に探究していきます。さらに発展的な課題を通して、社会を捉える見方や考え方を深めていきます。このような考察や探究を通して、教科教育における専門的な知識と実践的な指導力を身に付けていきます。					

授業計画	
第1回	日本の諸地域や日本の文化遺産からみた社会の見方や考え方
第2回	日本の西部（１）：九州地方の地理
第3回	日本の西部（２）：九州地方の文化遺産
第4回	日本の西部（３）：中国・四国地方の地理
第5回	日本の西部（４）：中国・四国地方の文化遺産
第6回	日本の中央部（１）：近畿地方の地理
第7回	日本の中央部（２）：近畿地方の文化遺産
第8回	日本の中央部（３）：中部地方の地理
第9回	日本の中央部（４）：中部地方の文化遺産
第10回	日本の中央部（５）：関東地方の地理
第11回	日本の中央部（６）：関東地方の文化遺産
第12回	日本の東部（１）：東北地方の地理
第13回	日本の東部（２）：東北地方の文化遺産
第14回	日本の東部（３）：北海道地方の地理
第15回	日本の東部（４）：北海道地方の文化遺産

事前学修	2時間	配付されたレジュメやワークシートの課題をやっておく。
事後学修	2時間	授業ごとに学び得たことを整理し、まとめておく。
フィードバックの方法	授業カードやワークシートの課題への記入を確認し、必要に応じてコメントする。課題レポートについて、評価した観点に即してコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	50%	補足事項を参照
上記以外の試験・平常点評価	50%	補足事項を参照
定期試験	0%	
補足事項	レポート：問題意識が明確か。論理整合性をもって文が展開されているか。一次文献を踏まえるなど論文作法が適切か。 上記以外の試験・平常点：授業の目標に即して学びを深めることができたか。発表やプレゼンなどでわかりやすい説明や伝え方がで	

	きたか。
--	------

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
楽しく学ぶ小学生の地図帳	帝国書院編集部編	帝国書院	978-4-8071-6419-6	丸善にて注文、購入
参考資料	適宜、指示します。			

科目名	初等社会			担当教員	福田 智美	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	ED1SRE208
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
‘アクティブ・ラーニング’の要素	プレゼンテーション					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	テーマ 世界遺産で学ぶ日本の地理と歴史 目標 (1) 小学校で学習する日本の地理と歴史について理解できる。 (2) 問いをたて、日本の世界遺産について調べてまとめることができる。 (3) グループのメンバーと協力し、主体的に学習に取り組むことができる。					
授業の概要	日本の世界遺産を例に日本の地理と歴史を学ぶ。そのために、グループに分かれ、それぞれのグループごとに問い（テーマ）を決めて、世界遺産について調べ、まとめて発表する。まとめ方、発表方法については、初回の授業で説明する。グループの編成および発表方法は受講者の人数により調整する。文化遺産と自然遺産についてそれぞれ1つずつ調べ、日本の地理と歴史への理解を深めるとともに、主体的かつグループで協働して学習する力をつける。					

授業計画	
第1回	授業の進め方、ガイダンス
第2回	自然遺産についてグループ分け、テーマ決定
第3回	グループでの問いの決定
第4回	他のグループとの意見交換
第5回	意見交換を受けたグループの話し合い
第6回	発表①
第7回	発表②
第8回	前半の振り返り
第9回	文化遺産グループ分け、テーマ決定
第10回	グループでの問いの決定
第11回	他のグループとの意見交換
第12回	意見交換を受けたグループの話し合い
第13回	発表①
第14回	発表②
第15回	全体の振り返り

事前学修	2時間	グループ活動のための調査やまとめを行う。
事後学修	2時間	グループで決定した調査やまとめを行う。
フィードバックの方法	コメントペーパーおよび発表、振り返りには適宜教員がコメントをする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない

上記以外の試験・平常点評価	50%	毎時間の振り返り（コメントペーパー）目標（2）（3）について評価
上記以外の試験・平常点評価	40%	発表および発表に使用した成果物、目標（1）（2）
上記以外の試験・平常点評価	10%	発表全体の振り返り 目標全て
補足事項	(1) 実際の調査やまとめについては事前・事後の活動となるので計画的に取り組むこと。 (2) 受講者の人数によりグループの人数や発表方法は調整する。発表時間も変更になる可能性があるため、初回の指示をよく聞くこと。 (3) 評価基準の詳細は初回の授業で提示する。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	古田陽久『世界遺産ガイドー日本編ー2025年改訂版』シンクタンクセとうち総合研究機構、2025年。 その他、授業で適宜指示する。			